

教育委員会（7月定例会）会議録

- 1 開催期日 平成29年7月4日（火） 13時30分 開会
- 2 場 所 宮村小学校 校長室
- 3 本日の会議に出席した委員の氏名は次のとおりである。
 - ・ 教育長 宮内 浩二郎
 - ・ 委 員 黒木 敏行
 - ・ 委 員 今村 博美
 - ・ 委 員 屋敷 和久
 - ・ 委 員 今村 一枝
- 4 本日の会議に説明等のために出席した職員の氏名は次のとおりである。
 - ・ 教育課長 渡具知 実
 - ・ 教育課長補佐 恒吉 正昭、山田 正人、西山 雄治
 - ・ 教育課職員 原田 誠（報告・その他）、戸高 志織（委員協議）
- 5 前回の会議録の承認 今村博美委員（6月定例会）
- 6 会議録署名委員の氏名 屋敷和久委員
- 7 行事報告 6月行事
- 8 本日の会議に付議した事項は次のとおりである。
(可)・否・続・同) 議案第10号 要保護及び準要保護児童生徒の認定について
 - ★ 委員協議
 - ① 複式学級のあり方について
 - ★ 委員視察
 - ① 宮村小・ウガンダ交流会視察（体育館へ移動）
 - ★ 報告
 - ① 生徒指導状況について
 - ② 6月定例議会一般質問について
 - ③ 都城地区中学校総合体育大会の結果について
 - ④ みやざき県民総合スポーツ祭の結果について
 - ★ その他
 - ① 7月臨時委員会について（確認）
 - ② 三股町水泳記録会（小学生）への出席確認
- 9 行事予定 7月行事
- 10 閉 会
 - ・ 次回定例会 期日：平成29年8月8日（火） 13時30分～
 - 場所：中央公民館 視聴覚室

教育長	あいさつ 本日はウガンタとの交流会の視察が入っており、時間が立て込んでいるため挨拶は省略します。
教育長 今村博美委員	前回の会議録の承認を今村博美委員へ承認する
教育長	会議録署名委員に屋敷和久委員を指名する
渡具知	<p>【行事報告】</p> <p>6月行事について資料に基づき報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2日 放課後子ども教室開級式 宮村22人、梶山21人、長田15人 ・ 3日 みやざき県民総合スポーツ祭総合開会式 ・ 4日 みやざき県民総合スポーツ祭スポーツ吹き矢大会 ・ 5日 高崎麓小学校訪問 ・ 6日 西小放課後こども教室開級式 6日10人、7日22人 ・ 7日 国内海外派遣事業結団式 ・ 8日 町議会6月定例会（21日まで） ・ 同日 みまた座 開講式 ・ 20日 学校訪問（計画訪問）20日長田小、21日三股中 ・ 24日 チャレンジ体験教室開講式 ・ 25日 みまた町民総合スポーツ祭総合開会式 <p>行事内容について質問等を求める。</p> <p>質問：地区座談会の様子どうか。 回答：座談会の出席者は平均すれば20人程度。教育関係の話題は、通学の状況についてが多い。学校の指導も行うが、保護者からの指導もお願いしている。</p> <p>質問：中学校の自転車通学の問題どうか。 中学校からは通学路の指定は学校からはしていない、通学に使用してはいけない道は指導していると答えた。</p> <p>【付議事項】</p> <p>案第10号 「要保護及び準要保護児童生徒の認定について」の説明を求める。 今回4世帯7件（名）の申請があり、全て条件付き認定の再申請だったが、1世帯2件の案件が町の要件に合致していなかったため不認定、3世帯5件を認定と審査したことを報告する。</p> <p>教育長 恒吉</p>
教育長 教育委員	議案第10号について承認を求める。 承認する。
教育長	<p>【委員協議】</p> <p>「複式学級のあり方について」、14：25頃まで協議を行う。「複式学級」の細かい点を決めるという協議の方向性ではなく、高崎麓小学校の視察も行ったので、視察で感じたことなど意見交換の場としたい。</p> <p>まずは一人ずつ感想を、屋敷委員は視察欠席のため後ほど質問などをお願いする。</p> <p>今村一枝委員</p>
教育長	1年生と2年生の複式学級を視察したが、教室内の人数が多いというだけで活気や元気さを感じた。担任の先生の指導もうまく学年を分けて対応されていて、複式学級にも良い点が多いと感じた。先生の負担は大きそうに思えたが、1教室の生徒数は複式でも決して多くはないので、対応可能ではないか。
教育長	1年生と2年生の複式学級で、それぞれ4人と3人でした。ずらっと横に並べての授

今村博美委員	<p>業でした。黒板はほぼ使っていないようで、TV画面でプリントを使いながらの授業進行でした。</p> <p>学校全体が複式学級ではなく、一部の学年だけ複式という方法もあることに気付かされた。また、1年生が入学間もないため、少し集中力を欠く面も見受けられたが、先生がしっかりと把握して授業を進められていた。</p> <p>問題点として、「みまたんモデル」の授業進行を考えたときに、複式学級では学年単位の進行となり、進行内容にズレが生じてしまう懸念が有ると感じた。ただし、工夫次第で対応はできると思う。</p> <p>また、複式学級で人数増から活気があるということと、複式の学年によって2学年の組み合わせで児童の顔ぶれが入れ替わるので、刺激がある、子どもたちが自発的に色々動き出すという校長先生の話にも感銘を受けた。</p> <p>長田小の2名だけの学年を思うと、そのままなら6年間2人だけのクラスが続く。複式ならば、そういった面の解消にもつながるのだということに認識した。</p> <p>特定の保護者の意見だが、長田小の保護者に聞いたところ、「長田小は複式だと思っていた。長田小だから良いのであって、複式でも単式でもあまり関係ない」という意見もあった。</p> <p>複式学級を行うにあたっては、まずは地域の方々に理解してもらうことが重要だと感じた。</p>
黒木委員	<p>長田小などの場合、2～3人の児童に、ずっと先生がつきっきりになるわけだが、それで学力が伸びるのかという疑問だ。</p> <p>今回視察した複式学級では、先生が一方の学年に直接指導しているときに、他の学年の子どもたちはワークシートなどで、子どもたちだけで学び合いをしていた。</p> <p>もちろんそのように訓練された結果だろうが、児童だけの学び合いの時間が持てるのは肯定的に捉えて良いと思う。</p> <p>また、2学年で学んでいることで、7人という人数になり、雰囲気がとても良かった。これらのことから、単式が全ての点で勝っているとは思えない。もちろん、複式は先生たちの負担が大きく、ハードルも高いとは思った。</p>
教育長	<p>教育効果をあげるために少人数指導が推奨されているが、どこまで少人数だと効果があるのか。その点の資料があったので戸高から紹介する。</p>
戸高	<p>戸高：適正規模の資料を提示・紹介。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グラス・スミス氏曲線（20人以下で大きくなる、具体的な数字はなし） ・テネシー州の実験（13～17人が最も効果的） ・広大、九大、名学で昭和30年台に研究 ・平成13年に国の「学級編成および教職員配置等に関する研究報告」20人以下が高得点。低学年のうち小規模がいいが、高学年になると差がなくなる。 ・心理学的には、低学年で小規模人数の場合、先生との親密度があがるが、6～7歳は交友関係・コミュニケーション能力・人格形成の大事な時期であるので、弊害となる可能性が高い。 ・長田小の児童の保護者からも、高学年の時期に学び合いや自分の意見を言う機会が少ないのではと懸念の声が挙がっている。 ・会話と対話、色々な人の価値観を知る経験値と対処法を学ぶ場が必要。
教育長	<p>20人以下の規模が最適なのだろうということは、宮村小学校・梶山小学校の状況から実際に感じられる。2030年問題の頃に大人になる今の子供たちに、対処できる力をつけさせてやるのが喫緊の課題であると感じている。そのためにも、今後も協議を続けていきたい。</p>
屋敷委員	<p>屋敷委員はどのように感じられたか。</p> <p>以前から15～20人が一番やりやすい、効果があると先生方から聞いていた。実施には教育にかかるコストの問題があるが、日本はOECD調査で教育コストの公的支出が低水準で、これからの改善に期待したい。</p>
教育長	<p>もう少し時間があるので、各委員思いがあればお聞かせください。</p>

黒木委員	学校は集団で学ぶ機会のある場であるということが大事だと思う。特に小学校3～6年については、2～3人より10人以上いたほうが良い環境だと思う。人数が多いと色々なもめごともあるだろうが、集団の中で身につける力というものも重要だ。
今村博美委員	2～3人ではもめごとまで発展せずに終わることも多い。集団ならではのもめごとは児童にとって大事な機会だ。もめごとの中で自分の意見を主張する力、折り合いをつける力というものを磨く必要がある。
教育長	長田小の過去例で、女兒だけ3人の学級の例があった。先生まで女性だったと記憶している。中学校になって初めて異性とのクラスになり、社会性という意味で戸惑いも大きかったのではと想像に難くない。 視察においても紹介された複式の良い点として、2学年をまとめるので年によって編成が交互に入れ替わる点大きい。一つの学年を主に考えると、上の学年との編成の年と、下の学年との編成の年が交互にやってくる。このことが、学級としての顔ぶれの固定化を防ぎ異なる人と対話する機会が得られ、社会性を身につけるといふ点で有意義だと思う。
屋敷委員	保育の分野では、年齢の横割りでなく、縦割りの保育はあたりまえである。1年生と2年生を同時に教えたほうが効果的というような部分があれば、人数的な問題ではなく複式教室を採用するという方法もあるのではないかと。
教育長	長田小や宮村小をとらえると、現在スクールバスという教育コストを払ってまで子供たちを集めようとしている。このままひとクラス十人程度まで集まっていけばよいが、そうでなければ児童ひとりあたりの教育コスト配分という点からも複式化は有効に思える。
屋敷委員	例えばスクールバスで長田小に単式で十分な児童が集まった場合でも、その児童たちは少し特殊な児童、つまり多人数にはなじみにくい児童が集まってくることになる。そのため、対応する先生にも相応のスキルが必要となるので、単純に解決するとはいえず難しい。
教育長	本日は結論をだす協議ではない。この問題については、ひきつづき協議を重ねていきたいと思う。
	【委員視察】 14:30～15:30 宮村小・ウガンダ交流会視察（体育館へ移動）
教育長 原田	【報告】 「①生徒指導状況について」説明を求める。 資料に基づき説明する。
教育長 渡具知	「②6月定例議会一般質問について」説明を求める。 一般質問の資料に基づき説明。 ・森議員「まちドラの開催状況を問う」 回答：延べ1270名ほど来場者。盛況であった。 ・森議員「まちドラの今後の展望を問う」 回答：盛況であったが、町民への根付きがまだまだ。今後の充実・発展を図る。 ・福田議員「幼保小一貫教育のネックとは何か」 回答：長田小とひまわれ保育園の分園のこと。法律や基準が異なり、それぞれの目的が異なること。本町では幼保小中連携推進協議会を立ち上げ、子どもたちの育ちを15年間で捉え育んでいる。 ・池田議員「就学援助について」（準要保護の入学時3月前倒し支給） 回答：法律改正に伴い可能になった。法改正のタイミングから今年度は実施不可能であったうえ、規則改正等の対応も必要である。今後の近隣市町村の動向を注視して対応を検討する。 ・楠原議員「文教みまた：歴史と伝統を活かしたふさわしい教育とは何か」

	<p>回答：学校教育の中で、歴史と伝統を活かしたみまたにふさわしい教育を実践している。そのほかまちドラ等の取り組みも行っている。</p> <p>・楠原議員「町民憲章：先人の偉業と開拓精神：これを学べる具体的な体制は何か」</p> <p>回答：町史を作成中である。町史完成に関連して広く町民に対して学ぶ機会を提供していきたい。</p> <p>・楠原議員「学校教育面：ふるさとみまたを意識させる三股らしい伝統教育を考えられないか」</p> <p>回答：例示として「校門での一礼」を挙げた。また三股町児童生徒憲章を挙げ、伝統教育が息づいていると回答。</p> <p>・楠原議員「学校教育面：全国学力テストの対策について」</p> <p>回答：従来通りの回答。各学校に対して「自校の調査結果を分析し、指導法の工夫・改善など学力向上の対策に取り組む」よう指示している。</p> <p>・楠原議員「ふるさと振興人材派遣事業の派遣先見直しの考えはないか」</p> <p>回答：今までの実績と事業効果も確認されていることから、見直しの予定はない。</p> <p>・楠原議員「梶山城について」</p> <p>回答：従来通りの回答どおり。今後の整備については、土地買収が完了したら、梶山城評価検討委員会を立ち上げて、そこで整備方法などを企画する予定。具体的な整備内容は検討委員会開催後でないと回答できない。なお、該当の土地について里道（町所有）が含まれるため、その部分については下刈り・台風時の清掃など、整備を随時行っていく。</p> <p>・指宿議員「国体に向けて：現状と今後の競技会場や練習場の誘致について」</p> <p>回答：まだ県の動きがあまりなく、町の検討も進んでいない。今後は、競技会場や練習場の誘致について取り組みを行う。</p> <p>・予算については原案どおり可決されたことを報告。</p>
教育長	「③都城地区中学校総合体育大会の結果について」は資料どおりとします。
教育長 西山	「④みやざき県民総合スポーツ祭の結果について」説明を求める。 資料に基づき説明。
	【その他】
原田	① 7月臨時委員会について（確認） 教育委員の出席について確認を行う。
原田	②三股町水泳記録会（小学生）への出席確認 教育委員の出席について確認を行う。
	【行事予定】
教育長 渡具知	行事予定について説明を求める。 7月の行事予定について説明。
	○次回定例会について
	8月8日（火）13時30分から 中央公民館 視聴覚室
	【閉会】（16時10分）

	教育長	教育委員
会議録署名者		